

# 「教員免許状更新講習」

平成 25 年 11 月 2 日（土）～4 日（月）2 泊 3 日



## I 事業の背景（必要性）

学習指導要領では、子どもたちの社会性や豊かな人間性をはぐくむため、その発達段階に応じた集団宿泊活動（小学校）、職場体験活動（中学校）、奉仕体験活動や就業体験活動（高等学校）を重点的に推進するとしている。体験活動の充実を図るためには、教員自らの体験を豊かにするとともに、教員が体験活動に関する基礎的な知識・技能を身につけることが求められる。

そこで、当交流の家では、学校の集団宿泊活動の支援や青少年の体験活動事業の企画・運営を通して体験活動に関する豊富なノウハウを有していることから、体験活動をテーマにした、免許状更新講習を開設することとした。

## II 事業の概要

### 1. 趣旨

児童生徒の「生きる力」をはぐくむ上で有効な教育活動である、体験活動の意義や指導に関する知識・技術を習得する。また、喫緊の教育課題である防災教育等を含む安全教育について、体験活動の視点から理解を図る。

### 2. 参加者

#### (1) 対象

小・中・高・特別支援学校教諭

#### (2) 募集人数

30名 最小催行人数：10名

※先着順 募集開始5月1日（火）から

#### (3) 参加状況

<学校別>

校種	男性	女性	合計
小学校教諭	5	5	10
中学校教諭	4	3	7
高等学校教諭	7	1	8
特別支援	1	0	1
合計	17	9	26

<参加地域>

地域	男性	女性	合計
静岡県	15	9	24
埼玉県	1	0	1
神奈川県	1	0	1

<年齢>

年代	男性	女性	合計
30代	9	1	10
40代	4	5	9
50代	4	3	7

#### (4) 広報の方法

- ① 前年度中に開設申請を行い、年度初めに静岡県教育委員会に依頼し、教育委員会のホームページへ開設状況を掲載した。
- ② 募集に合わせ、当所ホームページに開催要項と募集チラシを掲載

### 3. 日 程

2 日	10:30 10:40		11:00	12:30 14:00		18:00	
	受付	開講式	教育の現状 と課題	昼食 休憩	「参加型学習」の計画と指導		夕食 休憩
3 日	9:00 11:00		17:00 18:30			20:30	
	体験活動と 安全教育	「防災教育」の充実を図る指導方法 (途中、昼食・休憩を含む)			夕食 休憩	「キャンドル」のつど いの進行とレク指導	
4 日	9:00 11:00		13:00	14:30	15:00		
	学校教育におけ る体験活動	昼食 休憩	履修認定試験	閉講式	解散		

### 4. 講習会費

23,510円 【内訳】(受講料, 教材費, 食費代, シーツクリーニング代, 傷害保険料)

### 5. 内 容 (活動の様子)

#### (1) 「教育の現状と課題」

講師：静岡県教育委員会学校教育課長 輿水まゆみ 氏

平成25年度学力・学習状況調査結果をもとに、県内小・中学校の学力について説明があった。また、生徒指導上の問題行動として、暴力行為・いじめ・不登校の現状を取り上げ、発生件数の推移や特筆する最近の状況について理解した。特に、いじめについては、「いじめ対策基本法」の内容、小・中学校の年度別・学年別の推移、発見のきっかけ、いじめの様態、学校の取組みなど多様なデータで示し、配付された資料は大変参考になった。

#### (2) 『参加型学習』の計画と指導

講師：NPO 法人体験型科学教育研究所 専務理事 古川 和 氏

災害時など緊急の場合には、自ら日常の問題を解決する必要がある。この講座では、緊急時に児童生徒が自ら課題を見つけ、主体的に判断・行動することを育む指導方法を学んだ。

研修室内でできる実習を中心に行い、学級づくりや授業のヒントになるプログラムを多数体験しながら、学びを促進するファシリテーションスキルの重要性について学んだ。

アンケートには、「講義と実習のバランスがよく、講義内容を体験しながら理解できるような構成になっていた。」「教師はコンテンツを教えるだけでなく、学びの促進者であるファシリテーターとしての必要性を理解することができた。」という感想が



あり、学校現場で活かせる内容であった。

### (3) 「体験活動と安全教育」

講師：国立中央青少年交流の家所長 服部英二

野外活動における安全対策と危機管理について講義した。野外活動を「事前、活動、事後」に分け、その時々には指導者が配慮すべき注意事項や、万が一事故が起きてしまった場合のメディア対応「5つのメッセージ」について学んだ。また、「子ども会 KYT シート」を利用して、危険を事前に予知するトレーニングを行った。受講者からは、「KYT シートは経験別に学校の中で事前に行い、安全に対する意識を高めたいと思った。」「事前の状況把握、安全教育の推進、事故防止のための対策、事故発生の際の対応が学べて良かった。」という感想があった。

### (4) 「『防災教育』の充実を図る指導方法」

講師：国立中央青少年交流の家

主任企画指導専門職 加藤英樹 企画指導専門職 吉野達也

基本的な野外炊事の方法を身につけるとともに、災害時に役立つ調理方法の実習を行った。また、中央青少年交流の家の活動プログラムである「防災ラリー」を紹介し、防災力の意識を高める指導方法を学んだ。

#### ① 牛乳パックでホットドッグ

アルミ箔で包んだホットドッグを牛乳パックに入れて燃やし、適度な焼き上がりのホットドッグを作った。

#### ② アルミ缶を使った炊飯

基本的な野外炊事の技術を覚えるためカレーライス作りを行った。緊急時を想定して、ご飯は 350ml の飲料用アルミ缶で炊きあげ、身近な物で工夫することを学んだ。「アルミ缶炊飯など、具体的な指導事例を目的とともに分かりやすく示され、参考になった。」という感想のとおり、避難生活に役に立つ内容であった。

#### ③ 防災ラリー（交流の家活動プログラム）

「防災ラリー」の「みんなで脱出」と、「届け！私の声」を実施した。また、ロープワークでは、基本的な結び方である「もやい結び」や「自在結び」などを習得した。知識と体験の両面から学び、自らが判断して行動する場面を設定することで、防災教育の充実を図る指導法を学ぶ機会になった。



### (5) 「『キャンドルのつどい』の進行とレク指導」

講師：国立中央青少年交流の家 主任企画指導専門職 加藤英樹

補助講師：居場所づくり研究所代表 田井中正志 氏

学校の集団宿泊活動で人気の高い夜のプログラムである「キャンドルのつどい」の進め方と、具体的なレクリエーションの内容や指導方法を学んだ。

アンケートには、「自分が自然と楽しくなり、レクを通して社会性を学ぶことを実感する

ことができた。」「仲間作り，協力する事，励ましあう事など多くのものを感じられた。」の感想があり，指導方法を学ぶとともに，仲間との和を深められる活動であった。

## (6) 「学校教育における体験活動」

講師：文部科学省教科調査官 杉田 洋 氏

体験活動の充実が求められている背景，新学習指導要領で重要とされた体験活動の内容とその教育的意義，言語活動と体験活動の関連について講義を受けた。また，異年齢集団による触れあいの充実を図っている活動の様子などが，ビデオやスライドで紹介され，感動的なシーンに涙ぐむ受講者が見られた。

## 5. 評価

### (1) 評価の方法

講習の内容や方法，知識・技能の習得，運営面について，記述式と4段階評価によるアンケートを実施した。

### (2) 結果

#### ①アンケート集計

(有効回答：27名 4：よい 3：だいたいよい 2：あまり十分でない 1：不十分)

項目	4	3	2	1
本講習の内容・方法についての総合的な評価	17 (65.4%)	8 (30.8%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)
本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の習得の成果についての総合評価	24 (92.3%)	1 (3.8%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)
本講習の運営面についての評価	25 (96.2%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
全体平均	22 (84.6%)	3.3 (12.7%)	0.7 (2.7%)	0.0 (0.0%)

#### ②アンケートのまとめ

受講者からは，「体験活動に基づくテーマで統一され，とても興味深かった。」「3日間の流れが周到に組まれていてよかった。」「受講者が修了時にどういう姿になって帰っていくかイメージして組んでくれているのだと感じた。」という記述があり，講義内容や講習会のプログラムの組み立てについて，昨年以上に良い評価を得ることができた。

### (3) 成果

- ①異校種による講習会の開催であったが，宿泊を共にしたり，情報交換会を設定したりすることで，受講者同士の交流を深め合うとともに，和やかに学び合える機会とすることができた。
- ②野外活動と防災教育を結びつけ，学校現場で興味を引く教育プログラムとして紹介することができた。
- ③同じ学校から連続して受講者が来ていることから，教員免許状更新講習の開催を徐々に浸透させることができた。

### Ⅲ 事業の企画と運営

#### 1. 企画のポイント

- (1) 充実した体験活動とするため、喫緊の教育課題である防災教育を講義の中を含めた。
- (2) 集団宿泊体験の良さを知ってもらうため、宿泊を伴う講座として開設した。
- (3) 人間関係づくりや体験活動を中心にした講習会とするため、講義・実習の順序を工夫し、受講者の関わりが増えるような展開とした。

#### 2. 運営のポイント

- (1) 受講者の交流を図るため、第一日目の夜に情報交換会を持った。
- (2) 県外や遠方からの受講者のために、前日宿泊ができる配慮をした。
- (3) 講義を行う部屋には湯茶のコーナーを設置し、休憩の間に受講者が気軽に話ができる環境をつくった。

#### 3. 課題

- (1) 受講対象を小・中・高および特別支援学校としているが、講義内容や実習内容にあわせて募集を行うこと。
- (2) 履修認定試験の問題は、各講師と綿密な連絡のうえで作成し、時間配分と問題数が適切になるようにすること。必要に応じて、複数の講義を統合した問題にするなどの工夫を行うこと。

#### 4. 参考資料

##### (1) 参考文献やサイト

e-Gov 電子政府の総合窓口 教育職員免許法

<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S24/S24H0147.html>

文部科学省 教員免許更新制

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/koushin/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/index.htm)

##### (2) 資料

- ①実施要項
- ②アンケート用紙

担当：加藤英樹，吉野達也，齋藤勝利